

発行日：2021年3月1日

発行責任者：医療法人社団憩樹会 則武内科クリニック 院長 則武 昌之
〒300-1207 茨城県牛久市ひたち野東5-3-2 池田ビル1F TEL: 029-871-7878

私の履歴 62

透き通ったアマゾン川での釣り (4-1)

第5日目 (1月2日) の釣り

これまでアマゾン川で10匹以上は釣ってはいるが、50cm未満の小物ばかりだった。いずれも念願の10lbには全く足りていない。今日こそはBig fishを釣りたいと心に願って健闘を誓って出発。午前にもまた密林の水路を通過して別のラグーンに入ったがショック！まったく釣れず。ガイドのジュディオは別のガイドと何やら相談してから、かなり距離のあるアラナ川に行くことを決断した。40分もかかっただろうか？全速力でボートを移動させて着いた場所は、3年前の山火事で立ち枯れて一面が見渡す限り白木になっているところだった。

今までの緑の濃い密林とは全く風景・雰囲気は違っていた。この場所は釣れるかも？と思わせる幻想的な雰囲気で期待は膨らんだが、ああ!! 残念ながらここでも我々にあたりは全くなかった。午後にもさらに別のポイントに移って釣るが二人ともNo fish, No bite!! それでもフライを無心に投げ続ける。午後4時を過ぎて入った本流脇のポイントで私に待望のヒット!! 強い!! どう見ても今までの最大魚だ。強い! 強い! 強い!! リールのドラグをかけてもアア! またラインを出された! 3分くらいのファイトだっただろうか? ラインブレイク!! 残念! 「10lbの魚! 釣りたかったあー!」今のあたりを逃したらもう望みはなさそうに思えた。それでもフライを投げなければ奇跡を起こすことはまったく不可能なので奇跡を信じてキャスト・キャスト

ト・キャスト! 根がかりでまたラインブレイクしてしまいもう一度ラインシステムを作り直す。今まではガイドのジュディオが選んだフライを使っていたが、私の投げたかったフライを初めて使うことにした。3投、4投とNo biteが続く。5投目にフライがまずまずの場所に落ちてリトリブを開始したとき、Bite! Strike!! 「今度は絶対逃すものか!」ラインを緩めずにファイト! ファイト! ファイト! ファイト! 岸まで近く、狭い場所なので根に入られないように全力でファイトした。魚の力は強く、ものすごいプレッシャーだ。魚が暴れる! 正直獲れる自信はなかった。

(裏面へ続く)



▲56cmのアスー

information

糖尿病療養指導士 石引 由美子

レジリエンスってご存知ですか?

昨年から、私たちの生活に新型コロナウイルスが、大きな影響を与えています。終息宣言が出るまでには、まだまだ時間がかかります。それまでくじけず過ごして行かなければなりません。

メンタルヘルスの専門家は、様々な悩み事やストレスなど心理的なダメージから、しなやかに立ち直ることをそう呼ぶそうです。最近では日本でも様々な場面でレジリエンスの重要性が言われるようになってきました。

そのために出来る事として、助けてくれる人や相談できる人を作っておくことが大切です。またストレスによる不調の程度によっては無理をせず、治療を受けることも含めて早めの相談が大切です。



折れない心を育てるために、個々に出来る工夫として、

1. 過去のつらい出来事からどのように立ち直ったか考えてみる。
2. 他人は変えることはできないが、自分のとらえ方と行動は変えられると考えるようにする。

などを専門家は勧めています。

生活様式が変わってきた今、折れない心を育て、コンディションを整えて、一緒にこの困難を乗り越えていきましょう!!



— 休診のお知らせ —

2021年3月～5月の診療予定です。
宜しく御了承ください。

3月 March

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

4月 April

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月 May

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

透き通ったアマゾン川での釣り (4-2)

それでも幸運なことに何回かのファイトの末に魚がボート際まで寄ってきた。デカイ！ついにきたぞお！！すかさず村ちゃんに網ですくってもらいランディング成功！！やったアー！ここまで頑張ってきてよかったあー！測ると56cmのアスー。本当は10lbのピーコックを釣ろうと目標を立てて毎朝キャスト練習をしてきたのだが、これで十分だった。十分報われた気がした。というより、これ以上は無理だと思った。

最終日（1月3日）の釣り

最終日の午前も釣行にボートで向かった。同行者は皆さん30歳から50歳代で私よりもずっと若い人ばかりだが、彼らでもかなりの筋肉痛を訴えている。しかし不思議と私には筋肉痛はなかった。疲れてはいるがキャストは上達しているようで、フライが各ポイントに次々に入るのが気持ちがいい。私と6日間同じボートに同乗して釣りをした村ちゃんは28歳の好青年だが、ボートの上で居眠りをしていた。きっとツアーコンダクターで私たちのことをいろいろと気遣って苦労が多く、忙しかったせいもあるのだろう。私はキャストを決して休まなかった。私のモットーは「水の中にフライを置かない



▲アスー

限り釣れる可能性はない」だ。そう念じながらフライキャストを続けた。北海道の釣り友達からもらったチューブフライにかなり大きなバイトがあったが、残念にもスカポー（はずれてバレルこと）！しかし、その後根性でパッカ40cmを3匹追加。

アマゾンの帰路と海外旅行の大変さ

6日間の釣りを終えた私たちは狭い船室で荷物のパッキングをやっとの思いで終え、皆で昼食を食べてから午後2時にValsa号を出発。午後4時のバルセロス発マナウス行きのセスナ機のフライトも無事に済んだ。皆はマナウスで買い物や見物をしたが、彼らより老体の私は帰国後すぐの診療に備えて、体力温存のために私一人だけはホテルのベッドでしばし体を横たえることにした。往路では成田から40時間もかかり、その間ずっと体を横たえることができなかった。帰日も似たような状況になるかもしれないと思ったのだ。案の定、行きの鬼門だったマナウスからマイアミへのフライトがまたしても遅れているとの情報。「またdelayかよー！」と皆の顔が少しこわばった。1月3日の午後10時発のはずの飛行機がすでに2時間遅れていた。Delayのためマナウスの航空会社のカウンターはごった返



▲ラスベガスのカジノ付き高級ホテル

していたが、長い交渉の末にやっとのことで1月6日に成田着の飛行機に席を確保することができた。一行11名のうち4名は1月7日成田着の便しか取れなかった。私はまだラッキーというべきだったかもしれない。結局マイアミに着いたのが翌朝午前11時、予定していた日本への飛行機には間に合わなくなっており、ラスベガス経由で日本に帰ることになった。ラスベガスではカジノ付きの高級ホテルに航空会社の支払いで泊まることができた。カジノというものを初めて見たが、ホテルに着いたのが午前1時半だったので私は残存する体力を温存するためにカジノには参加しなかった。海外でいろいろなトラブルに巻き込まれてきた。今までにも大きなトラブルだけでもロスバケ（シッターラビット、アメリカ）、雷による欠航（デトロイト、アメリカ）、爆弾低気圧の積雪による空港閉鎖（NYJFK空港）、台風による空港閉鎖（成田）などを経験したが、今回は5回目だった。言葉もわからないので自分では交渉しようもない。海外でトラブルに巻き込まれて足止めされるのは本当にもうまっぴらだ。

こうしてやっと1月6日の夕刻に成田に着いた。1月3日の2時にバルセロスを出発してから1月6日の16時に成田に着くまで60時間も経過していたのだ。帰路の途中に聞いたところ、ツアーの別のチームは我々以上に釣れなかったようだ。我々のチームのほうが釣れていたと聞いた時には少しびっくりした。そして私は「アマゾンをなめてはいけない」と思い知ったのである。

アマゾン滞在中に同行者たちが足が浮腫むというので彼らを触診すると前脛骨部に圧痕を伴う浮腫が出現していた。私の下腿にも軽く浮腫が認められびっくりしたが、成田に着いた時に自分で触診してみると下腿浮腫がさらに悪化していた。ちょっとびっくりして「もう年なのかなあ？」と思った。こういった遠距離の遠征は深夜に移動することも多く、60歳以上にはやはりきつい。あと何回海外釣行できるのか、このコロナ禍の最中ではさらにわからない。しかし私の体力的にも問題が生じつつあることは確かなようだ。